### 第七十号 三版 (無料)

音信不通 本のビオトープ

ブックカフェとカフェブック 2022. 05. 20 定有堂書店 発行

本屋の読書会 「独りで本を読む」の先に 板谷 まさこ

岩田 直樹

奈良 敏行

汽水のほとりから (4) 鳥居 貴彦

続々ようせい日記

ホットプレートの油断

ワクサカソウヘイ

「てもちぶたさ」か「てもちぶさた」か「萩原俊郎 小原 修治

『千年の読書 人生を変える本との出会い』をめぐって松田 裕史

芝野 浩貴

リアルとフェイクの功罪

あるなしのはなし

内田 克彦

ムラカミヒロミ

鳥取あれこれ その六十九 還暦の朝 八代日記 (二十六)

齊藤 仁昭 秦阜 梅林

ドラメリア あきの素生 三浦 永理

波線の先

何かいいこと 「与える側」になる

# ブックカフェとカフェブック

奈良 敏行

(定有堂 店主)

ら「ブックカフェ」に衣替えしたからだ。 ている。きっかけは定有堂の三階にあるカフェが、四月か 最近カフェにある本と本屋にある本の違いについて考え

がある。カフェで読書したりモノを書いたりしているとき、 店内には久しく前から「カフェブック」と銘打った一角

その高揚感を共有するための本と付け加えてもいい。ニ、 合える本をイメージしたものだ。二、三人でカフェに行き、 きっとなにかしら心に高揚感が訪れる。その高揚感につり

だろう。本を手にして会話するというのは、自分の好みや 三人で行く場合、黙って各自読みふけるということはない

りそれだけ個性の強い本でなければ、カフェというステー 置いてある本は読まれなくてもいい本だし、三十秒位で内 容の全体像がイメージできればとてもいいと考える。つま 個性をくっきり示すいい機会だと思う。わたしはカフェに

ジを支えきれないはずだ。それがわたしの構想する「カフェ

ブック」だ。

でもブックカフェの側は、じっくり読んで欲しいと考え

ないどこかにいるようでどこにもいない、読者を想定する。 この違いについてどう考えているのだろうと知りたくなっ 幻想領域の形相化だと夢見る。そう思った瞬間、他の人は カフェブックは、人そのものでなく、人と人との間にある かり人を見据えている。わたしは、カフェでは、特定され ている。そして手にする人の顔も見えているらしい。しっ

た。

店に勤めている。カフェで読書会も継続している。「カフェ、 さんは、「あらためてそう問われて、戸惑いました」、少 書店、本屋にある本って個性的にどう異なるのでしょう?」 毎月目を通してくれているT・Iさんは愛知県の大きな書 し時間を下さいね、というお返事だった。「音信不通」に おられるのでもっともだと納得。一番期待して質問したI 食店に本があるのがおかしい」と即答。日頃本を慈しんで 「音信不通」寄稿者の愛書家のMさんは、「そもそも飲

主)の哲学っぽいもの 個人的 と質問した。 身近 ロングセラー ニッチ 「本屋にある本」→ 店主 地域 一冊づつ 小さな世界 趣味趣向 お店(店

「書店にある本」→ 話題 流行

新刊 賞味期限が早

住 ファッション 日常 旅 視覚的 人とモノコト 「カフェにある本」→ ライフスタイル 暮らし 衣食

オールラウンド 万人向け 定番 わかりやす

覧をボードにすれば、数時間ディスカッションできると心 出したものをフリップボードというが、この整頓された一 と整理してくれた。テレビで説明図や項目リストを書き

騒いだ。

更新調整していく必要がある。 る。だからいつもこの焦点を時代に合わせ、往来に合わせ 屋は個性派とよくいわれるが、個性には賞味期限が必ずく 結局ここには、本への焦点距離の深浅がある。小さな本

が、自宅の積み重なった本の中から出てきた。まったく内 において本が人と人とをつなげていく。数日前「読む会」 の初期に話題になっていた木村敏の『心の病理を考える』 のち)とトポス(場所)の意味だ。そしてその表象の仕方 いる。これも本との焦点の合わせ方の一つだ。バイオ(い ここ数年定有堂は「本のビオトープ」と名のりを上げて

続する生命。ゾーエー的生命はビオス的限定によっては2 定の個人の有限の生命。ゾーエーは個体の分離を超えて連 容を含め忘れていた。読み返したら「ビオス」と「ゾーエー」 という一節があり驚いた。ビオスはバイオの語源。ある特

「生成変化」の意識が必要だったと思える。では成変化」の意識が必要だったと思える。このようなのかもしれない。賞味期限を免れるためには、このようなとすれば「本のビオトープ」が現象する。結局「本の品揃とする地点となる。そしてその拠点の素材が「本」である生きる拠点となる。そしてその拠点の素材が「本」であるじめて個別化される。つまりトポスはその限定性によって

別の物語として語られなければならない。(リアリティ)は闇の底へと限りなく深まる。それはまたクチュアリティ)の範疇にあるものだろう。本の「潜在性」(アブックカフェもカフェブックもこのような「現働性」(ア

2022.04.16

毎月一回 火曜日 詳細は店内掲示定有堂教室「読む会」 (岩田直樹氏 選書)

講師の日本武術太極拳連盟の段のは認る級指導員の年週の水曜の十九時半からの・土曜の十三時半から大極拳教室(会場の定有堂二階)葉香クラブ(荷葉)

# 「独りで本を読む」の先に

#### 岩田 直樹

(公立鳥取環境大学特任教授・

「読む会」選書人)

的多数の回答であることは容易に予想できる。ションはなさそうだ。「時間があるときに独りで」が圧倒唐突な問いかけで困惑するかもしれない。答えにバリエー皆さんは、いつどのように本を読んでいるのだろうか。

て読むしかない。

て読むしかない。

なの場合も大差はない。職場で読むのは仕事関連の本で
私の場合も大差はない。職場で読むのは仕事関連の本で

ていたのと同じで、読書は生活の一部になっている。会(ここ二年間は○回)が生活リズムの一部に組み込まれと同じ調子だ。コロナ禍の前、年間五、六○回あった懇親ひと月に六冊ペースで本を読む。就職して三四年間、ずっ

から、毎年一○月に翌年の一一冊を選ぶ(毎年一二月は忘もう」と決め打ちすることはない。その年に読んだ本の中り上げることになる。最初から「この本は『読む会』で読年七○冊前後のうち一一冊は、結果的に「読む会」で取

年会。

問に思う人がほとんどだろう。簡単に説明したい。うか、それだけである。「大人の遊び場?何それ?」と疑選書の基準は何か。「大人の遊び場」に適しているかど

○一八)を取り上げた。 ─会読の思想史』(原著二○一二、平凡社ライブラリーニ

二〇二〇年七月「読む会」では、前田勉『江戸の読書会

近代的自我も誕生したことを示した画期的研究だ。が有名である。音読から黙読へ読み方が推移するとともに代読者の成立』(原著一九七三、岩波現代文庫二〇〇一)実態を、出版、作者と絡めて歴史的に考察した前田愛『近実態を、出版、作者と絡めて歴史的に考察した前田愛『近

鱗」とはこのことだ。該当箇所を引用する。感銘を受けたのは、会読の第四の原理であった。「目から感銘を受けたのは、会読の第四の原理であった。「目からここまでの論究であれば、さほど刺激的な研究ではない。

の異空間だった。

…物質的・社会的利益がなかったからこそ、逆説的ですが、かったかと思われます。ホイジンガは『ホモ・ルーデンス』のなかで、遊びは「いついかなる物質的利害も、いかなるかったかと思われます。ホイジンガは『ホモ・ルーデンス』場が遊びの場だったという点です。一冊のテキストを共同場が遊びの場だったという点です。一冊のテキストを共同場が遊びの場だったという点です。一冊のテキストを共同場が遊びの場だったという点です。一冊のテキストを共同場が遊びの場だったという点です。

しむ」は「fun」だけではなく「interesting」の要素を「読む会」が「大人の遊び場」である大前提に、「本を無理して読まなくていい」がある。耳学問(よく知った無理して読まなくていい」がある。耳学問(よく知った無理して読まなくていい」がある。耳学問(よく知った会読は成立できたのです。」(四三八―四三九頁)

と私は考えている。もちろん早期の再開を望んでいる。ない「読む会」が中止の対象になるのはやむを得ない、感染者が発生して高止まりが続いている。不要不急では開かれていない。鳥取県東部地区でコンスタントに新規開かれていない。鳥取県東部地区でコンスタントに新規

(NHK出版)、二月『「利他」とは何か』(集英社新書)一月の本『つながりの作法―同じでも違うでもなく』

「独りで本を読むこと」の先には「不自由さの中でのつ哲学の共通項は「不自由へ目を向けること」である。の最前線』(講談社現代新書)が取り上げている六人のについておしゃべりするつもりだった。三月『日本哲学

のタイトル通り、「読む会」では「独りじゃないこと」

5 -

考えていた。まさかコロナ禍が三年目に入るとは。には、自分たちの送別会は開かれるだろう、とのんきにには、自分たちの送別会は開かれるだろう、とのんきに再開までは「仮想のつながり」を楽しもうではないか。再開までは「仮想のつながり」を楽しもうではないか。

当然、問題は送別会ではない。感染者が出るたびに学

く地元のためにお役に立てれば、と思っている。にも連続性がある。生活に全く変化はない。もうしばら的には「地方公務員の再任用」でしかなく、仕事の内容ての心境の変化は?」と問われることがある。事務処理四月からは地元の公立大学に勤務している。「退職し四月からは地元の公立大学に勤務している。「退職し

### 本屋の読書会

板谷 まさこ

(書店勤務・

愛知県在住)

経つだろうか。 「読書会」というものを知ってから、かれこれ5~6年

「あ、あれ言えばよかった!」とか思い出したりする。こった。あとは瞬発力の無さか。だいたい2~3日経った頃、か。あとは瞬発力の無さか。語彙力が足りないってことなのだからといって適当に似たような言葉がすぐに見つからない。難しいなと思う。ピッタリくる言葉がすぐに見つからない。が、あれ言えばよかった!」とか思い出したりさ、何度参加し今では割と人前で話すことには慣れたけど、何度参加し

る。のへんな時間差を埋める方法があったら知りたいものであ

先日とある本屋の読書会に参加した。読書会にもいろん なスタイルがあるが、今回参加した読書会は当日まで課題 図書がわからない、というものだった。参加費を払うとそ の場で課題図書が手渡され、指定された1章~2章を読ん で、感想や疑問に思ったことなどを自由に話し合うスタイ ルだ。主催者の方いわく、課題図書を事前に読んでくる読 書会は参加者にとって結構ハードルが高いけど、当日にな らないとどんな本かわからなければ、もっと気軽に参加で きるのではないかと思ってこのスタイルにした、とのこと。 テーマだけ先に伝えて、興味があれば参加してね、という ま会に参加したことのない人でも参加しやすそう。いろん 書会に参加したことのない人でも参加しる。 書会に参加したことのない人でも参加しる。 書会に参加したことのない人でも参加した。 書会に参加したことのない人でも参加した。 書会に参加したことのない人でも参加した。 書会に参加したことのない人でも参加した。 書会に参加したことのない人でも参加した。 まで課題

ゆる~い関係性。もっと広まるといいなと思う。面に出くわすことってないような気がする。本から始まる新たな発見があったり。なかなか普段の生活でこういう場モノの見方に触れることで、視野の狭さに気付かされたり、

る人のお話を聞けるのが本当におもしろい。自分にはない

会って、話すのもいいけど、自分とは違う視点で読んでい士の距離感が縮まってるあの感じ…結構好きです。 読書

ごく笑える。そんな持はだいたい本の話題から逸れて雑談てきて、ある日突然突拍子もないことを言ったりする。すどずつ見えてくるのもおもしろい。初めの頃は硬いイメーとずつ見えてくるのもおもしろい。初めの頃は硬いイメーところで私自身も読書会を主催しているのだが、回を重

かりと刻まれている。)
かりと刻まれている。)
かりと刻まれている。
いかないと出会えないのではないか。(ちなみにその突ドが下がる瞬間というのは、やはりある程度おしゃべりしに花が咲いてる時だったりするのだが、こんな風に人のガーだがでがる瞬間というのは、やはりある程度おしゃべりしいがでいない。

た。そして実感した。やっぱり、「会って話す」っていい

お休みしている間にいろんな読書会に参加させてもらった。

しばらくお休みしていた読書会を再開することにした。

参加させてもらった場から、人とのゆる~い繋がりができ

越えて楽しもうとするたくましい私たち。なんにしても、'ですね。マスク越しでも、衝立て越しでも、条件を乗りプ

早くコロナが終息することを願う。

## ホットプレートの油断

ワクサカソウヘイ

(文筆業)

蜃気楼である。あ、でも馴染みの鳥取市役所はイオンの前

を自宅のキッチンで乱雑に切り、油を敷いたプレートの8 出していた。そしてエスマートで肉や野菜を購入、それら ことは、ビールを絶対に飲みたいということでもあり、こ 最寄りの焼き肉屋までは車で15分。焼肉を食べるという ちょっとだけ野性味のある香りと、甘い脂の味とが、鼻孔 ビからのハラミからの上ミノからのヤンからの冷麺である。 がようやく様になってきたところで、世話焼きの女将さん ないらしい。でも、空港の近くの教習所で食べられると噂 さな集落で夜半の鹿の鳴き声に紛れさせて何度上げたこと を頼むほどではない!そんなうめき声を、私は八頭町の小 ことはできない。ああ、焼肉食べたい! でも、代行運転 うなれば代行運転の覚悟でもないかぎり、ひとりで出向く かった。なにせ当時の拠点だった八頭町才代のエリアから 鳥取にいた頃は、焼肉を店で食べることがなによりも難し の中で暴れる。美味しい美味しい、焼肉美味しい。思えば 都内では『和』以外にはないらしい。 炙って口に運べば ヤン? ヤンって、なんだ?女将さんに聞けばそれは、牛 に網を何度も変えてもらっては、タン塩から始めてのカル で聞いた。本当? とにかくいま、私は東京での固着生活 だろう。そんな時、私はいつもホットプレートを引っ張り の大腸の上部分のホルモンらしく、新鮮な状態で出す店は に移転して、新市役所ではスラーメンを食べることはでき 思いながら、グラスのビールをすする。やがて湯気が上がり、食欲の行き着く果てが目の前に現れる。ホットプレート焼肉、またの名を、オイル焼き。タレをかけ、順番などなんぼ。ほとんど「油袋」と化した紫色のそれを口に運べなんぼ。ほとんど「油袋」と化した紫色のそれを口に運べなんぼ。ほとんど「油袋」と化した紫色のそれを口に運べなんぼ。ほとんど「油袋」と化した紫色のそれを口に運べなんぼ。ほとんど「油袋」と化した紫色のそれを口に運べなんぼ。ほとんど「油袋」と化した紫色のそれを口に運べおがみ焼き食べたい、クレープ食べたい、飲子食べたい、お好み焼き食べたい、クレープ食べたい、の願望をいともお好み焼き食べたい、クレープ食べたい、の願望をいともお好み焼き食べたい、クレープ食べたい、の願望をいともお好み焼き食べたい、クレープ食べたい、の願望をいともお好み焼き食べたい、クレープ食べたい、飲子食べたい、そして緊張している。油断していなければホットプレートの入りたやすく街で叶えてくれる。そこにホットプレートの入りたやすく街で叶えてくれる。そして私は気づけばホットプに出会えることはないのだ。そして私は気づけばホットプルートの大り、食欲の行き着く果てが目の前に現れる。カースによりによっている。油断していなければホットプルートの大り、食欲の行き着く果てが目の前に現れる。

った。 東京に染まり始、愛しき鳥取の象徴となりつつある。私の浦富海岸よりも、愛しき鳥取の象徴となりつつある。私の東京に染まり始めたいま、かの調理器具はもはや砂丘や

なかった。そうだった、私の鳥取生活は常にホットプレーキリンビールの中壜を併せることも、もちろん忘れてはい

れとも黄土色?

トプレートってどんな色をしていたっけ? 黒? 緑? そ 'レートの形状を忘れ始めている。 あれ、 そういえばホッ 9'

上に即投入、炭火ではなく電力に依る焼肉を楽しんでいた。

せていた。肉を焼き、そこに野菜たちを乗せ、蒸気に頼っも。外食ではなく、すべて自宅のホットプレートで昇華さトと共にあった。餃子も、お好み焼きも、クレープでさえ

て蓋をする。これじゃ焼肉じゃなくて蒸肉だよな、なんて

### 続々ようせい日記

#### 鳥居 貴

( 開風社 待賢ブックセンター )

隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡は隔離生活五日目。当たり前のように保健所からの連絡はいった。

所を教えてもらえたら。だが返事がない。マンションの下 ばん端に灯油の販売スペースがある。照明がやけにまぶし る。日が暮れてから家族三人で車に乗った。マスク、アル を振る。三歳児はもうクッキーを開けてほおばっている。 夫婦が出てきた。が、どうしたらいいのだろう。車の窓を に着いてしまった。「今からおります~」と返事がきた。 向こうには見慣れた丸太町通の街並み。広い給油所のいち コールスプレーと除菌のウェットティッシュ。窓ガラスの けば誰とも会わないはずと思い灯油缶も準備。普段あまり 会うこともないだろう。セルフの給油所なら気をつけて行 帰りは急な坂。やはり取りに行こう。夜遅い時間なら人と すぐに折り返しの電話。仕事終わりに自転車で来ようとし 駐輪場とかに置いてもらったらこそっと取りに行きますー」 のクッキーと唐揚げも入っていた。「ありがとう~」と手 んじゃこれ、と夜道マスクの下で笑いあう。袋には手作り いてもらい、二人が一旦離れてから車のドアを開けた。な 開けるわけにもいかず変な時間が流れる。道の向こうに置 車に乗ったまま待つ。大きなスーパーの袋を抱えたVさん い。Yさんに連絡を入れる。もう着きます。置いてある場 夜に出かけたがらない息子も今日はすなおに用意をしてい ていたとのこと。三十分くらいかかる距離。行きはいいが そのまま車を家とは反対方向に走らせる。午後十時すぎ。10

息子を膝にかかえてゆっくりと車は家に向かう。こちら側には人が三人。妻に運転してもらい、眠らない・ドアを閉めるとまた世界が向こうとこちらに分かれた。1

あれから二ヶ月。保育園からは毎週のように陽性者のおあれから二ヶ月。保育園からは毎週のように陽性者のおあれから二ヶ月。保育園からは毎週のように陽性者のおあれから二ヶ月。保育園から三年が経っていた。 が まった。どちらも人出は多い。 毎日何千人かがあの暗い夜を過ごしている。 隔離中に 中で琵琶湖みにいく奴そんなおらんやろうけども。京都駅 中に始まった。 どちらも人出は多い。 告の景色は以前と何時に始まった。 どちらも人出は多い。 一日になり、 ついに 前? もうどっちでもいいのかもしれない。 気付いたらこ前? もうどっちでもいいのかもしれない。 気付いたらこ の場所で本屋をはじめてから三年が経っていた。

「開風社 待賢ブックセンター」

えない。一瞬の沈黙。息子が「こわい」と言い出した。ド

確認。と言っても真っ暗なのでライトを消すとほぼ何も見まっていない。そろりと車を入れ近くに誰もいないことを

と足音がした。風が吹いている。助手席と運転を交代する。アを開ける。 地面があった。 なぜかほっとする。 じゃり、

湖畔道路を走ると公園があった。駐車場には一台も車は止側には、 いまは誰もいないように見える。 暗い。 しばらく

京都市上京区大宮通椹木町上る菱屋町818

# 汽水のほとりから (14)

### 小原 修治

(県立高校教諭 湯梨浜町松崎在住)

感情はウクライナ東部の紛争停止を公約に当選したゼレン

戦争に反対する者は逮捕されているようだが、ロシアは、12

承認した。この暴挙に多くのウクライナ国民は憤り、その行支配するウクライナ領のドネツィク州を独立国家として

突然ロシアのプーチン大統領は親ロシア派の武装勢力が実

振り返れば、二月の末、ウクライナ侵攻が始まる数日前、

一個人として人間は、命を捨て「義」を貫くことがある。を得ない状況に大統領は追い込まれたのである。確かに、大命をかけて戦うもの、従って、人命よりも大事なもの。それは一方的に侵略してくる敵国から自国を守る正義だ。それは一方的に侵略してくる敵国から自国を守る正義だ。それは一方的に侵略してくる敵国から自国を守る正義だ。それは一方的に侵略してくる敵国から自国を守る正義だ。を得ない状況に大統領は道い込まれたのである。確かに、自分を支管ない状況に大統領は道い込まれたのである。確かに、を得ない状況に大統領は道い込まれたのである。確かに、との批判の予告を対して、

それは尊い行為である。匹夫も志を奪ふべからざるなり。

いるいのは、支持を失うのが何よりも怖いからである。 りれども、戦争においては、それは常に集団心理となる。 けれども、戦争においては、それは常に集団心理となる。 はではない。彼は国内外の支持者に対してウクライナの非外ではない。彼は国内外の支持者に対してウクライナの非外ではない。彼は国内外の支持者に対してウクライナの非外ではない。彼は国内外の支持者は彼の言葉を信じ、実盤を固めようとした。多くの支持者は彼の言葉を信じ、実盤を固めようとした。多くの支持者は彼の言葉を信じ、実際、支持率は侵攻前より上がったのである。彼が作戦を止際、支持率は侵攻前より上がったのである。彼が作戦を止際、支持率は侵攻前より上がったのである。彼が作戦を止めないのは、支持を失うのが何よりも怖いからである。 めないのは、支持を失うのが何よりも怖いからである。

アメリカ同様、大統領を直接選挙で選ぶ民主国家なのだ。

は世間から非国民のレッテルを貼られ、牢につながれた。 コラムニスト山本夏彦は戦後の平和論者を揶揄したことが 内村鑑三は「平和なときの平和論」と書いた。そう言って、 日本も同じようなものだったと思う。戦争に反対する国民 こうした戦争をめぐる指導者と国民の関係性は、戦前の

うに、国民国家たる近代国家の戦争の特徴は、国民の「義」 ることで引き起こされてきた点にあると言えよう。 際、戦前の日本では多くの国民が戦争を支持していた。思 の感情に訴え、指導者がそれを自らの権力の維持に利用す

争無き時代に平和を説くのとはわけが違うと言うのだ。実

争に「義」が無いと説いたが、それは命懸けの行為で、戦 ある(『かいつまんで言う』中公文庫)。内村は日本の戦

大量破壊兵器が使われ、民間人に戦死者が出るようになっ 近代の戦争のもう一つの特徴は、科学が発達したことで、

はない。その意味で、降伏の決定は指導者の責務だが、こ は覚悟を決めても、何も知らない赤子まで犠牲になる道理 想いを私がむげに否定できなかったのは、それ故だ。大人 間人のようだ。たとえ国民が命懸けで戦っていても、「こ んなに人が死ぬのなら、早く降伏すればいい」という母の た点にある。今回のウクライナ侵攻でも戦死者の半数は民

そう認めれば、戦後の歴史はまさに空虚と言うほかない。

れが難事なことは、半藤一利『日本のいちばん長い日』(文

早期の憲法改正を訴える者がいるらしい。確かに、自国を が一部議員から出ていると聞く。若い人の中にも、SNS でロシア脅威論を唱え、中国・北朝鮮を仮想敵国と見なし、 今回のウクライナ侵攻を受けて、国会では軍備増強の声

近代戦の特徴は指導者が国民の「義」の感情を利用する点 守ることは「義」である。しかし、先にも述べたように、 広島と長崎に原爆が投下されることも無かったのである。

春文庫)を読めばよく分かる。とはいえ、降伏決定が半1

年早ければ東京大空襲は避けられたし、ひと月早ければ -

消えはしない。あげくの果てには核武装の議論が始まる。 試されるのは私たちだ。そんなものは始めから無かった。 世界平和を祈るという戦後日本の「義」は本物だったのか、 が、それは唯一の被爆国として平和を訴えてきた戦後日本 流されそうになる時こそ、戦争反対を考えるべきなのだ。 にあることを忘れてはならない。私たちが「義」の感情に アメリカの押し付けで欺瞞だったと説く者が必ず現れる。 の否定である。その時、平和憲法同様、戦後の日本社会は 仮想敵国の攻撃に対する不安は、いくら軍備増強しても

### 定有堂倉吉支店その②

### 萩原 俊郎

「てもちぶたさ」か「てもちぶさた」か

(倉吉市在住者)

だろうか、というわだかまりがある。 どんなに夜遅くともスマホを引っ張り出して検索すれば「す こんな時、現代ではスマホという便利なものがあるので、 ぐるぐるかけめぐった。こうなると朝まで眠れない。 どっちが正しいんだろう、という疑問がわいて、頭の中を ぐに問題は解決!」となるのだが、はたしてそれでいいの 夜中にふと、「てもちぶたさ」か「てもちぶさた」か、

現実であるにしても。 は浮かぶんだけど、なんていう名前だっけ。早く調べなさ ビに久々に出ていた女優のアレ、名前、なんだっけ?」「顔 いよ」…とスマホがないと夫婦の会話も成り立たないのが たとえ、カミさんと晩メシを食べながら、「きのうテレ

カミさんは同級生で、互いに還暦を過ぎてからとんと固

う言えば、あの頃いたわねえ」などと二人でニヤニヤして えられないような歌手の名前がふと口をついて出て、「そ とか、中学の頃覚えた、たぶん今覚えようとしても絶対覚 ダビデ(あの一発ヒット「ナオミの夢」を歌ったデュオ) チンクエッティ(女性カンツォーネ歌手)とか、ヘドバと 有名詞、なかでも名前が出てこない。その割にはジリオラ・



思ったが、追手がスマホの電波で追跡してくるので、主人 公がナイフで切り開いてズルズル引き出していたシーンが リコール」では、手にスマホみたいな端末が埋め込まれて いて、「いちいちスマホを手に調べなくていいか」などと 確か、2012年にリメイクされたSF映画「トータル・

(あまりに気持ち悪いので)印象に残っている。

ところが覚せい剤で捕まったのに2018年にB&G財14 成と山本耕史という濃い配役」「そうそう、でも2009 年に覚せい剤取締法違反で夫婦そろって逮捕されたわね。 のことだ。視聴率37・8%は1990年代の全民放ドラ たフジテレビ『ひとつ屋根の下』ののりピーこと酒井法子 マの最高視聴率。兄は江口洋介と福山雅治、弟はいしだ壱 会話も、 「それは1993年の最大のヒットドラマになっ もし、体内にスマホが埋め込まれたら、晩メシの夫婦の

な夫婦の会話」になってしまう。まあ、こののりピーのく スラと話は続くのだが、ほとんど「ウィキペディアみたい 活。人間、分からないものです」などと、よどみなくスラ 団から初代の『子ども健全育成大使』に選ばれ、奇跡の復

だりも実際にウィキペディアを見て書いたんだけど(笑)

それにしても、本当にいいんだろうか、と思う。確かに

手に入れることが可能になった。大げさに言えば「人類の うか絶えず検証された「全体知」をいとも簡単に検索し、 グーグルやウィキペディアを通じて、われわれは世界中の 人間の手によって共同執筆され、しかも、それが事実かど

語ってしまう。何か分からないこと、気がかりなことがあ れこそ夢のような世界である。 そして、それがさも自分の考えや主張であるかのように

叡智」を数秒で引用できるのだ。昔の人間から見れば、そ

うまくいく」というコメンテーターがいた。漫画家であり ればスマホに手を伸ばし、自分を安心させる。 この間、テレビで「もうAIに政治や経済を任せた方が

ていることだ。

ントロールする作品 (火の鳥・未来編1968年) を描い は、今から半世紀以上も前に、AI=人工知能が社会をコ

ちぶさた」ではないだろうか。

医学博士でもあった手塚治虫が本当に天才だなあと思うの

の判断にゆだねている。やがて「マザー」と呼ばれる各・ 国のAIは「私こそ正しい」と対立し、核戦争で人類は滅

ぶ。予言としては本当に怖い作品だ。

ないこと」ではないか、と思いついた。「ご無沙汰してま を眺めて言葉を分解してみると「ぶさた=沙汰(動き)が ヒマである」という意味は知っている。つらつら夜の天井 さて、冒頭の疑問はどうなったかー。「やることがなく

す」の「ぶさた」である…ようやくこれで眠れる。

う二度と忘れないだろう。悩むときはスマホに安易に身を ない、ように見えた様から」とあった。それは面白い。も ち〟の桶から客の容器に油を注ぐ間、じっと ~何もしてい ゆだねず、悩むだけ悩んでみるのもいい。 翌朝、語源辞典を開いたら「江戸時代の油売りが、手持

り書いている私は、よほど「てもちぶたさ」、いや「ても と言われ、一生忘れることはなくなった(笑)。 語教師から「ヨ(よう)エロ寸(すん)、お前のことじゃ」 それにしても、こんなことを春の夜ひねもすのたりのた 中学時代「尋ねる」という漢字をよく忘れた。すると国

# 『千年の読書 人生を変える本との出会い』

### をめぐって

(高校教員)

「千」つながりで言えば、松岡正剛の千夜千冊のサイト「千」つながりで言えば、松岡正剛の千夜千冊のサイト「千」つながりで言えば、松岡正剛の千夜千冊のサイト

け数週間かけてようやく読了した。いと思い、一日一〇分くらい読むルーティンをしばらく続がどうこうの話ではなかった。ただ、速読すべき本ではながとうだがきを読み始め、すぐにのめり込んでしまった。熱

会学』である。後の章で若松の別の著作、『悲しみの秘義』松英輔の『弱さのちから』と岸政彦の『断片的なものの社まえがきと第1章を読む中で僕の中で想起されたのは若

と岸の『断片的なものの社会学』が紹介された時はわが意と岸の『断片的なものの社会学』が紹介された時はわが意みは、それは弱みを開陳する。そして、次のように述懐すおける自分の失敗を開陳する。そして、次のように述懐すおける自分の失敗を開陳する。そして、次のように述懐すおける自分の失敗を開陳する。そして、次のように述懐すおける自分の失敗を開陳する。そして、次のように述懐すおける自分の失敗を開陳する。そして、次のように述懐すいものだが、それは弱みを見せたくないからだ。だが、三いものだが、それは弱みを見せたくないからだ。だが、三いものだが、それは弱みを見せたくないからだ。だが、三いものだが、それは弱みを見せたくないからだ。だが、三がさんは違う。読者に自分の弱みを晒すだけのちからがある。だからこそ、全編にわたって三砂さんの優しさが滲みる。だからこそ、全編にわたって三砂さんの優しさが滲みむ。だからこそ、全編にわたって三砂さんの優しさが滲みむ。だからこそ、全編にわたって三砂さんの優しさが滲みむ。だからこそ、全編にわたって三砂さんの優しさが滲みといる。読んでいて心の強張っていた部分が緩む。弱さと呼びがいる。

当事者としては違和感を持ち続けている。失われたもの16 と同じ、就職氷河期世代である。ロストジェネレーションの代表的な作家だ。)メディアでは何か大きは元々、アメリカ文学の文脈で使われている。ヘミングウェは、フィッツジェラルド、フォークナーなどがロストジェネレーションという言葉世代とも呼ばれる。(ロストジェネレーションという言葉なものが失われた(Lost)かのように報道しているが、こなものが失われた(Lost)かのように報道しているが、これ、フィッツジェラルド、フォークナーなどがロストジェネレーションを同じ、就職氷河期世代である。ロストジェネレーションを同じ、就職氷河期世代である。 第2章「生きづらさへの処方箋」眠れない夜に読む本」第2章「生きづらさへの処方箋」眠れない夜に読む本」

きない部分があるが、第2章を読む中で生きづらさや居心が期せずして失ったものは言語化できる部分といまだにでいく何か。その断片こそ語られ、聴かれていくべきだ。僕ない。大きな物語にしたり、抽象化したりするとこぼれては個々人で異なり、それらは断片的にしか語ることはでき

地の悪さに対する解像度を上げることができた。この章で

い働き方を探す旅」であることには思わず膝を打った。として人の人生を襲う無限の暗闇の中で本が一筋の光となとして人の人生を襲う無限の暗闇の中で本が一筋の光となめるアプローチは取られていない。本をきっかけとして蛇は生きづらさや居心地の悪さについて、直線的に解答を求ば生きづらさや居心地の悪さについて、直線的に解答を求い働き方を探す旅」が登場するのも頷ける。本章で

義』は読んだことがなかったのでいつか読んでみたい。の記事は欠かさずチェックしているが、『おいしい資本主本主義経済は避けて通れない。近藤康太郎(朝日新聞記者)第3章では定有堂書店が登場。働き方を考える上では資

だいる。借金、資本主義についての考察がいくつかの本と共に展開借金、資本主義についての考察がいくつかの本と共に展開第4章はこの流れで「「お金」から見た世界」。利子、

三砂さんの守備範囲は広い。

第5章は食と料理がテーマ。 期待通り藤原辰史の 『食べ

をめぐる思考』が紹介される。)が登場。 (第6章でも藤原の『分解の哲学 腐敗と発酵・

るとはどういうことか: 世界の見方が変わる三つの質問』7-

とで進化してきたという学説にも目から鱗が落ちた。実はやって損はないかもしれないと思った。人間は走るこれすぎて本質を見失いがちな現代人、というより自分にはしても興味が持てないでいたが、ブルシットジョブに囲ま第6章は瞑想について。マインドフルネス瞑想にはどう

と気づく。

「いながらも緩やかに生から死への考察がなされているうしていながらも緩やかに生から死への考察がなされている動に駆られた。本章の最後で死から生が逆照射される。こ動に駆られた。本章の最後で死から生が逆照射される。こ動をしばらく読んでいなかったが、すぐにでも読みたい衝撃7章は現代人が最も忌避している死について。若松英

たのか、いつか知りたい。 本書は単なる書評本ではなく、本を通して三砂さんの断書のが、本の英訳タイトルは柴田元幸さんだと巻末に旅に読む人を誘(いざな)う。また、本の中では触れられが、赤の英訳タイトルは柴田元幸さんだと巻末に旅に読む人を誘(いざな)う。また、本の中では触れられたのが、いつか知りたい。

# リアルとフェイクの功罪

#### 芝野 浩貴

(地球探究家)

けでもない。実写である。実写では、『国境の夜想曲』も重 することになった)チェチェン紛争からウクライナ侵攻まで 言葉は、『パレードへようこそ』へのオマ-ジュだろう。(私 者の立場になるには?」について考えていたので、設定につ るものもあった。私個人は「とりかへばや物語」として「他 犯と刑事が互いの顔を取り替えて死闘を繰り返す内容で、当 たい映画であった。こちらは一切説明もナレーションもなく、 し出される。実話を配役で演じたわけでも、アニメ化したわ 内容は「ゲイの粛清」で映像でしか伝わらない非人道性が映 は 2014 年公開のこの映画から LGBTQ という言葉を強く意識 について考えざるを得なくなる衝撃的な映画に出会った。 時の評価の中には、設定が現実離れしていると酷評されてい 映画『フェイスオフ』(ジョン・ウ-監督、1997 年)は、殺人 の流れに無関係とはいえない時事的なドキュメンタリーだが、 いては深く追及はしなかった。それから四半世紀経ち、「顔」 『チェチェンへようこそ』である。邦題の<ようこそ>という ジョン・トラボルタとニコラス・ケイジがW主演を務めた

> れている」と評している。 について「目に見えない事実の断片が目に見えない真実に触観るものの想像力に委ねられる。詩人谷川俊太郎はこの映画

ディープフェイクの<フェイスダブル>を使用した。 ディープ 題になっている。被害者が安心して事実を話せるようにして18 も併せた最新のAI技術を駆使した世界初の試みとしても話 顔を隠してボイスだけで取材するのでなく、<ボイスダブル> 活動家の顔にすり替えた。モザイクで本人の顔をぼかしたり、 は逆の発想で、真実の声を守るために本人の顔でなく LGBTQ フェイクは本人が言ってもやってもない嘘のことを真実に見 がわかると命が危ない。そこで監督のデビッド・フランスは いるのは証言者の証言後の保護である。映画で証言したこと 販の旅行者用ビデオなどで撮影を実行した。一番ケアされて トへの履歴で内容を追跡されないように、使い捨て携帯や市 ない。『チェチェンへようこそ』では、スマホやインターネッ なっているが、監視体制の厳しいチェチェンではそれは通じ れた』(47号)のように個人のスマホでも映画は作れるように 気になって観ていた。撮影方法といえば、『娘は戦場で生ま 致された娘の音声など、どうやって撮影したのか? の方が す人々の生の映像なのだが、捕虜となった IS の姿や IS に拉 せるような使われ方が多く、問題点が多いが、フランス監督 イラク、クルディスタン、シリア、レバノンの国境に暮ら

ブルに加害者と被害者だけの世界にしない配慮は必要だが、でいどころか逆効果の時もある。構造を見抜き、サステナ者に詰め寄る場面は多々ある。責任追及や処罰だけでは解決パワハラ・アカハラなど、被害者からヒアリングを行い加害たのである。学校や職場でのいじめ・セクハラ・モラハラ・ある。「当事者性の真実と安全のための匿名性」を両立させある。「当事者性の真実と安全のための匿名性」を両立させ

年にノーベル平和賞を受賞したコンゴの産婦人科医の映画の出演者へのケアは命懸けである。助けを求める人の救養後の出演者へのケアは命懸けである。助けを求める人の救養後の出演者へのケアは命懸けである。助けを求める人の救養後の出演者へのケアは命懸けである。助けを求める人の救養後の出演者へのケアは命懸けである。助けを求める人の救援をてに観てもらいたいが)拷問や殺人のシーンも含めている日本人をに観てもらいたいが)拷問や殺人のシーンも含めている日本人をでに観てもらいたいが)拷問や殺人のシークを作り、一時的な法では観でするの。 本でノーベル平和賞を受賞したコンゴの産婦人科医の映画の大変の出演者へのケアは命懸けである。助けを求める人の救援後の出演者へのケアは命懸けである。助けを求める人の救援をの出演者へので、事前事をでは、大きないので、事前事をでは、大きないので、事前事をでは、大きないので、ものというないが、大きないので、事があるというので、ものというない。

> れた過去を持ち、<真実の伝え方>は難しいことを物語る。 ・ 会ことなどで、再読され始めている。しかし「苦海本土なる ・ まで、再読され始めている。しかし「苦海本土なる ・ などで、再読され始めている。しかし「苦海本土なる ・ などで、再読され始めている。しかし「苦海本土なる ・ はを殺された母親が今現在もウクライナ出身であることや、19

2021年10月Facebookがメタへ社名変更した。フェイスブッ2021年10月Facebookがメタへ社名変更した。フェイスブッ2021年10月Facebookがメタへ社名変更した。フェイスブッ

替性ト-クン)での取引が始まっているのだ。WR&AR から MR の違いを含めて、インターネット上の3次元が2の日本人狩りに思えた。メタバースでは既に NFT(非代来たりて、DX に翻弄されている。チェチェンのゲイ狩りは、来たりて、DX に翻弄されている。チェチェンのゲイ狩りは、アマが2)に移行した現在、デジタルファシズム(堤未果)は既にゾン)に移行した現在、デジタルファシズム(堤未果)は既にゾン)に移行した現在、デジタル大の違いを含めて、インターネット上の3次元が200円を出ているのだ。

<真実の行方>は受け身では追えない。

立山芽以子さんは、筑紫哲也、佐古忠彦(カメジロー不屈の

いることと繋がる。(ムクウェゲ医師に聴き取りした監督の

(アレクシェ-ヴィチ著)は第2次世界大戦の独ソ戦での女性生涯)からの系譜の人である)『戦争は女の顔をしていない』

義務として、住民への威嚇のためにやり続けた」と証言して

クウェゲ』でレイプ実行犯が、「性欲でなく、仕事として、

### あるなしのはなし

ムラカミヒロミ

(フライング・ブックマン)

どこが面白いのかしらといいがあらい本なんて

哲学者は、我思う、ゆえに我あり、と宣った。にもかかわらず、穴は「ある」。穴は、その部分が「ない」から穴という。梨を「ありの実」という。

だけでも静かな環境で過ごせるように、というコンセプト溢れている。せめて、レコードを聴いている四十六分の間(ジョン・ケージではなく)現代の生活は(騒)音に満ちかつて、音のないレコードが発売されたことがあった。

であったと記憶する。

カンバスに白い絵の具を塗りたくっただけの絵画、といりそうだ。付き合ってくれる観客がいるかどうかは保証の映画ならプライヴェート・フィルムや自主上映で何とかな

これを映像でやったら面白かろうが、TVはたぶん無理。

たりした日には、あっちの世界に飛んで行った人に勘違いうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンルうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンルうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンルうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンルうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンルうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンルうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンルうのもあった。何でも、モノクローム絵画というジャンル

出たことがある。自分用に、あるいは友人知人へのプレ20か失念)なる、一年三六六日に対応した三六六冊の本が ,その後も、バースデーブック (という名称だったかどう

され兼ねない。そんな書き出しの小説もありました。

ディア倒れに終わったようだった。ちなみに、今は、個別れてしまったが。三文判売場じゃあるまいし、単なるアイと、歯抜けが目立つようになってからは、早々に片付けらく、歯抜けが目立つようになってからは、早々に片付けらい、表題のみが違っている本が三六六冊、書店の本棚をも)、表題のみが違っている本が三六六冊、書店の本棚をも)、表題のみが違っている本が三六六冊、書店の本棚をも、まびでイント用に、という魂胆であったのだろう、兎に角、罫がゼント用に、という魂胆であったのだろう、兎に角、罫が

るところを見ると、固定客があるのだろう。新潮文庫が手帳タイプの「白い本」を出す。毎年忘れず出今でも、カレンダー・シーズンになると、ちくま文庫や

の占い本として他社から出ていて、結構売れているらしい。

を世に問う向きがある。で、絵のない絵本とか、字のない小説、なんぞというもので、絵のない絵本とか、字のない小説、なんぞというものさて、世の中にはヘソの曲がった御仁が少なくないよう

垣足穂を彷彿させる。 シニカルでモダンな作風が面白く、アンデルセンよりも稲内容はさて置き、題名だけは印象に残る。林房雄の方は、同趣向で書いている。掌編小説のはしりのようなもので、同総のない絵本』はアンデルセン。後に、林房雄が同題

アメリカの画家で、木版による挿絵で一世を風靡した。字のない小説は、リンド・ウォードである。

描いている)
描いている)
描いている)
おのではおいの作者として知られているかや『ちいさな赤いとうだい』の作者として知られているかも描いていて、日本ではむしろ『大きくなりすぎたクマ』を描いていて、日本ではむしろ『大きくなりすぎたクマ』を描いていたな赤いとうだい』の作者として知られているから『フランケンシュタイン』の挿絵は、最も人口に膾炙した『フランケンシュタイン』の挿絵は、最も人口に膾炙した

佐々木マキ、大矢ちき、とり・みき などが試みている。句が〈字のない小説〉であった。語りのない紙芝居という句が〈字のない小説〉であった。語りのない紙芝居というつが〈字のない小説〉であった。語りのない紙芝居というその彼が Gods manという著書を出した時、奉られた文その彼が Gods manという著書を出した時、奉られた文

### 鳥取あれこれ その六十九

#### 内田 克彦

(地域研究家)

の頃、「因州鳥取侯松平相模守〈よしのり〉」が登場する。 術取立を仰せ付けられる」。そして、二月二六日に、軍艦 奉行へ「病気を理由に、国許への帰国を願出、許される」。 さて、子母澤寛『勝海舟』の中では、この年の正月明け 安場は、一八六三(文久三)年の正月一八日には、「砲

案外、ざっくばらんな調子のある才子肌の殿様だ。 相模守は、痩せた如何にも大名らしい風貌であったが、

差当って、如何なる処置を為すべきであろうか」 「いざ、諸異国を対手に攘夷実行の場合、当藩としては、 といった。

近くより悉く的中の巨弾を浴びせます。〔略〕」 備えがなければ、敵艦は易々として本土に接近し目睫の 「海軍より外に国を守るの法はありません。その海軍の

こんな具体的な話があったのだろうかと、『池田慶徳公

菊池伊予守・勝麟太郎・松平勘太郎等皆同舩にて、四つ て乗組まる。〔老中格小笠原〕図書頭を始、河村壱岐守・ 夫より御手舩にて、沖合にある幕府蒸気舩朝陽丸に至り 〔正月〕七日 朝六つ時、伴揃御乗切にて天保山に至り、 二』を当たった。次の記述のみであった。

母澤が書いているのは、この時のことであろう。 ところが、『勝海舟日記』には、次の記述があった。子

時発舩にて、八つ半時紀州加太浦に赴かるれば、

大体を論ず、御同人之数輩我門に入ることを被談 [正月] 九日 因州侯之邸に到る、海軍之事并警衛之

入ったところで、勝に会ったのである。そして、一五日に き、一二月一九日には再び京都に入り、正月五日に大坂に の発言を『慶徳公伝 二』が記述している。 再度京都に入る。翌二四日に今小路大蔵卿が訪れたとき 帰国するため出発、姫路まで進んだが、引き返し二三日に 二年一〇月八日鳥取を出発し京都に入り、その後江戸に行 八六二(文久二) 年から翌年にかけてのことである。 文久 鳥取藩主池田慶徳が国事周旋のため動き回ったのは、一

### 今小路大蔵卿より申上書取

至心に御座候。 今日之御時宜ニテハ、京師御警衛、尽御退キ被湯候儀、一、別紙ニ拙論仕置候。世上ニテ唱申薩・長・土・因侯、

書かれている。 と唱えられている、と ここには、世上では「薩長土因」と唱えられている、と

〇一二年刊)があり、そこには次の記述がある。 上勲の編著『日記で読む近代日本1 幕末・明治前期』(二これまで幕末史を学ぶ際に、その叙述を信頼していた井

藩である。
「尾崎忠征日記』の筆者は尾張藩士である。で、長州、土佐、越前に次ぐ影響力を持ったある。『尾崎忠征日記』の筆者は尾張藩士である。このれている。『安達清風日記』の筆者は、鳥取藩の藩士でおる。

に明らかにされるべきであり、他藩の動きと絡めてわかりめた鳥取藩の動きは、その後の研究の進展を踏まえてさら我が国の幕末維新史における、池田慶徳の思想と行動を含世 政治』が依然用いられているが、井上の記述からも、現在、通史として一九七九年刊の『鳥取県史第3巻 近

三ヨこ鳥収こ削着する。 半年ぶりの帚国である。 さて、慶徳は文久三年三月一六日に京都を出発し、同二

のためである。」としている。帰国するのではなく、大田氏は「内実は国許の様々の御用帰国するのではなく、大田氏は「内実は国許の様々の御用それでは、安場はどうしているのか。「病気を理由に」三日に鳥取に到着する。半年ぶりの帰国である。

町田明広『攘夷の幕末史』では、その後の記述がある。

(大坂) 留守居役は、大坂城代・大河内信古にもその (大坂) 留守居役は、大坂城代・大河内信古にもその を (大坂) 留守居役は、大坂城代・大河内信古にもその (大坂) 留守居役は、大坂城代・大河内信古にもその

(以下、続く)

二〇二二: 四: 二三

やすく解説した著作が今後現われるのを期待したい。

### 八代日記 (二十六

齊藤 仁昭

#### 四月某日

尼崎は市外局番が大阪と同じらしいが本当なのかしら。ある神社を見つけた。異様なでかさ。お参りさせてもらう。物やさんがある商店街はいいなあ。やたらとでかい鳥居の物と主催の方に教わる。 会場の「尼崎 tora」付近はいいだと主催の方。 見崎は初めてだ。 兵庫県だけど大阪圏ライブで尼崎へ。 尼崎は初めてだ。 兵庫県だけど大阪圏

の降りたところが多かった。どうも製造業の冷蔵室だったアーケードは賑わっていたが、tora 付近はシャッター

タジオで少し練習。れいだから。会場でのサウンドチェックのあと、近くのスれいだから。会場でのサウンドチェックのあと、近くのスもなんだか懐かしい感じ。最近はライブハウスもどこもきうだった。界隈の暗さはなかなかのもので、会場の不良感ようなスペースを改築して作り上げたライブスペースのよ

切った感じが全くなく、後悔。 6バンド出演で、我々は最後の6番目だったが、3番目のために聞いたらそんなに悪い演奏ではなかったらしいが、やりなくわからず、ずっと冷や汗をかいていた。ライブ後に人全くわからず、ずっと冷や汗をかいていた。ライブ後にしたが、3番目の出演者が爆音な上にえらくかっこよくて通していった感じが全くなく、後悔。

#### 四月某日

してもらったが陰性だった。ほっとする。仕事は休ませてしてもらったが陰性だった。ほっとする。仕事は休ませての恒例と言えば恒例の発熱。病院に行ってコロナの検査をみすぎて全身筋肉痛になっていたのが合わさり発熱。四月 ライブの日以外休めずに仕事していたのと、ライブで力

いけないので翌日も休むことに。2連休してしまった。 \_ その日の夜に次男も発熱。翌朝いちおう検査はしないと

#### 四月某日

共演が予定。楽しみ。 共演が予定。楽しみ。 共演が予定。楽しみ。 共演が予定。楽しみ。

いかない。アメリカ・・・。 とは、これでいる。が、ハックフィン(恥ずかしながら初めて読んでいる。が、ハックフィン(恥ずかしまルト』とトウェインの『ハックルベリーフィンの冒険』が、カーラと伊坂幸太郎・阿部和重の『キャプテンサンダー楽に浸ろうと伊坂幸太郎・阿部和重の『キャプテンサンダー楽に浸ろうと伊坂幸太郎・阿部和重の『キャプテンサンダー楽に浸ろうと伊坂幸太郎・阿部和重の『キャプテンサンダー

おはようございます 朝はごあいさつ

君と僕とで

お気の済むまで 今朝もごあいさつ

前に会ったんでしたっけおはようございます 今朝もごあいさつ

あそこでここで 今朝もごあいさつ

朝昼晚

考えるのはわずかなこと朝が来てまた昼が来て晩

赤や黒の車を見てるへッドライトのサイズで切り取ってく

朝昼晩

きこらつはつ デュ よここ 夜が明けたら昼が来て晩

テンプレートの合図で今日もグッドバイ考えるのはわずかなこと

テンプレートの合図でハロー

(ケバブジョンソン「訪問者 ILL」作詞:杉浦真寛)

### 還暦の朝

秦阜 梅林

(楽人)

訊かれるラインが入って居る… 此の祝いを終へた同い年の友人に「どんな気分…? 」とフェまでペダルを漕いで珈琲を啜ってゐる。早速一足先にフェまでペダルを漕いで珈琲を啜ってゐる。早速一足先に還暦を迎へた朝、いつもの休みと同じやうに馴染みのカ

は不思議に週末で、独り静かに過し遽しひ職場には居なひ。め一時間蒲団の中でボォッとして居た。此処数年、誕生日だうもかうも無ひ、 ただ昨夜疲れて睡り… 7時に目醒

てゆくのみ。
此の歳に格別の感慨は無く粛々と此れ迄の作業を前へ進め

唯、此れからの10年に,

を遺し逝きたひと云ふ願ひだけがいよいよ切実になった…これ迄の創作を踏へ更に一歩進めた「眞の代表作」こそ

健康を害し,斃れなひならば? 是非さうありたひもの

,

完成をみて机下に眠らせて居る。 しての確固たる目標が有り,第一交響曲は初版稿の一応のしての確固たる目標が有り,第一交響曲は初版稿の一応のして前者は歌劇・オラトリオ,後者ではシンフォニストとだひたひ僕には創作上 2 つの柱、則ち声楽と器楽作家と

メモしたひ。はり初の「恋愛もの」、以下その構想と夢に就ひて簡略にはり初の「恋愛もの」、以下その構想と夢に就ひて簡略にの「大人のオペラ」の創作にかかってゐる、第一作は、やそして今,歌劇作家として、いよいよ童話では無ひ、初

Ш

或る意味アンサンブルオペラである。 で合唱と管弦楽(小編成、変則的な室内オケ)の活躍する、で合唱と管弦楽(小編成、変則的な室内オケ)の活躍する、愛と死を回想の形に謳ったドラマとして再構成したもの,愛と死を回想の形に謳ったドラマとして再構成したもの, 出れ迄一貫して拘って来た、「大正ロマン」の代表的作

ブ高い奇声を発する「夕鶴」※(團伊玖磨氏作曲)と違っ26三木稔先生の「じょうるり」は、浴衣で何やらオクター ,せる初の本格日本 (語) オペラ。黛敏郎先生の「金閣寺」、此れは徹底して邦語の響きやリズムを聞かせ、浮き立た

依るもの、邦人作品とはいへ日本オペラとは言へなひだら て立派な作品と敬服してゐるが英語や独乙語のテクストに

生々しく描き問ふこと、美しひ詩人の詞を自然な楽興に映 し謳ふことから…新たな可能性を模索.彷徨して居る… 舞台上に,或る男女の姿、其の愛憎やら夢の崩壊,死を

2022.03.27

J. ピアーズ (T) 他。 (T)

4 3 ノブラー イヨートff・・ ^ ・R.ヴァグナー「トリスタン&イゾルデ」W.フルトヴェ -27 ングラー指揮フィルハーモニア管弦楽団コヴェント ガーデン王立歌劇場合唱団ズートハウス(T)他 rec1952

C. ドビュッシー「ペレアス&メリザンド」原作メーテ 響/フランス国立放送合唱団ジャンセン(T)グランツェ ルランク DE.アンゲルブレシュト指揮フランス国立 (公) 他 rec1962~63

遺したが、歌劇,交響曲の分野では…である。 ※木下順二氏の戯曲ならば同名の舞台劇で充分であらう、 との私見. 團氏は歌曲,合唱曲に非常に優れた作品を多く G. ヴェルディ「ラ・トラヴィアータ」(「椿姫」) カラ座合唱団/管弦楽団M.カラス(S)ディ.ステファ 原作デュマ・フィス CMジュリー二指揮ミラノ・ス

今回の一枚

トスカニーニ指揮NBC交響楽団L.アルバネーゼ(S (イラスト・秦阜梅林)

② G'プッチーニ「ラ·ボェーム」原作ミュルジェ

. (T) ゴッビ (B) 他。rec1951

### 「与える側」になる

『母親になって後悔してる』に寄せて

三浦 永理

(青翔開智中学校教員)

四月。後輩ができた。

ことも多くなる。 後輩ができてしまえば、向こうよりはわずかばかり「知っ るのだが。)まだまだ自分にできないことばかりなのに、 状況だった。(と言っても、私自身は、そんなにできるわ ている」状態になってしまうから、伝えなくてはいけない けでもないのに、「できる風」になってしまうところがあ 「後輩」として質問したり、頼ったり、周りに甘えている 今までの私の社会人生活は、どこにいても一・二年目で、

は会議になると声の震えが止まらない」と部署で話題になっ 見られているのか、実の所不安だ。最初の職場で、いわゆ る体育会系な先輩指導を受けた。感謝もしつつ、恐縮して しまった社会人一年目の私は、緊張しっぱなしで、「三浦 まだ慣れていないが故に不安な後輩を私は優しく面倒を

> とも、自分の後輩には伸び伸びして欲しいのに、私の助け たから、異常事態だった。そんな経験もあるので、少なく が、人生で「緊張で声が出ない」経験など、その時だけだっ は本当に助けになっているのか、チクリと言ってしまって いないか、どこかで自分を俯瞰してしまう。 てしまった。というのも、演劇部出身で目立ちたがりの私

が大事なのかもしれない。 から先は、結局は自分が何を与えるか、何を作っていくか の側に。少しずつ人生は変わっていく。そう思うと、ここ える側に。誰かに守られる子どもの側から、誰かを守る親 与えられる側から与える側に。例えば、教わる側から教

せいだ」と恨み言を言える時間は、限られた時間なのだ。 なることがいかに難しいか気づいてしまう。簡単に「親の こと一度想像すれば、完璧に子どもの要求に向き合うこと が酷かった」「家族があの時助けてくれなかった」と言っ など不可能で、「与えられる側」の時に夢見ていた状態に 形かもしれないということだ。「与える側」に自分がなる てしまうのは、「与える側」になることからの責任逃れの そんな予感の一方で湧き上がるのは、大人になって「親

定有堂で手に取った『母親になって後悔してる』は、28--

二十三人の女性にインタビューを行った研究をまとめた一 「子どもを愛している。それでも、母でない人生を想う。」

る!」と言われ続け、自然な流れとして母親になったもの この本に登場する女性達は「母親にならなければ後悔す

れでも母親になった後の後悔を述べることが社会的にタ 彼女たちの中には、養育権を手放した親もいれば、子ども との生活を続け、子どもに愛情を注ぎ続ける親もいる。そ の、「他の人生もあり得たのではないか?」と後悔する。 ブーであり、母親失格も同然の感情として押し殺されてき

常に母である「責任」を負うことになった女性達は、た

た。

ることから離れることができず、常に子どもたちへの心配 とえ仕事をしていても、他の家事をしていても、母親であ

のか、と。 を俯瞰しながら、葛藤していく。私はよい「与える側」な う感情を抱いていて、自分は「良い母親」なのか」と自ら すると、社会からの批判も凄まじい。そして、「後悔とい が絶えない。あるいは、子どもからの責任から離れようと

されている。与えられる側の非力な子どもの視点に立てば、 この本の五章は『でも、子どもたちはどうなる?』と題

は、同じような後悔を抱いてほしくないからこそ、話した ある人は、その後悔を子どもには言えないといい、ある人

いとも言う。本書にはこのようにある。

える側」になるなら、一人の人の人生を通して、その意味 とだろう。それでも、子どもたち自身も親になるなら、「与 して知ることの妨げにもなる。」 よって子どもを守ることは、子どもが母をひとりの人間と 母親になった後悔を告白されることは、トラウマ的なこ 「社会的期待に合うように自分の物語を編集することに

を知る可能性も残されるべきかもしれない。

考えるのではないだろうか。 りではないのだから、どう「与える側」として生きるかを かもしれない。それでも、自分はもう「与えられる」ばか ろう。半分は納得して、半分は申し訳ないと思ってしまう 一方で、自分が同じ告白を母親から受けたらどう思うだ

私に与えられた一冊だった。 こんな一冊に出会うのだから、本屋通いはやめられない。

### 何かいいこと

### あきの素生

(くうねるめがね)



ただしくも心地よい季節だ。にお世話になったコートやセーターは仕舞われていく。慌に感じた。着るものが見る間に少なく、軽くなり、冬の間に茂っていた。桜にばかり目が行って、芽吹きの時期を見ぶと目を上げると、ハナミズキが白に白を重ねるよう

なさが、こんな口癖を生んだのだろう。加えて、暇でもあっなさが、こんな口癖を生んだのだろう。加えて、暇でもあっらかとか、ここではないどこかにとか、そんな可能性がと笑いながら、それでも次の日には、また同じことを繰りと笑いながら、それでも次の日には、また同じことを繰りと口にしていた。何かいいことないかなぁ、と毎と口にしていた。何かいいことないかなぁ、学生の頃、毎日のように、何かいいことないかなぁ、学生の頃、毎日のように、何かいいことないかなぁ、

持ちだったように思う。 た。切迫していたわけではないけど、それなりに切実な気

の間に、自分の中からなくなっていたのだろう。思っていたのに、思うばかりか口に出していたのに、いつだったので、その久しさに驚いたのである。あんなに毎日でから驚いた。この言葉が湧いて出たのが本当に久しぶりぶりに、何かいいことないかなぁ、と考えたからだ。考えぶりに、何かいいことを思い出したのかというと、先日久しなぜこんなことを思い出したのかというと、先日久し

人によるだろうが、思いがけず早く目覚めた朝の布団人によるだろうが、思いがけず早く目覚めた朝の布団ないことないかなぁ、なんて思わなくなっていた。友人に教助しているときは何でもないことが、不安に感じられたりもする。いろいろなことが見通せず、布団の思考回路からたのかと思い返すことも稀なものではあったが。何かがどたのから降ってくる可能性はほぼないに等しいと知り、実立かから降ってくる可能性はほぼないに等しいと知り、実がから降ってくる可能性はほぼないに等しいと知り、実がから降ってくる可能性はほぼないに等しいと知り、実たのから降ってくる可能性はほぼないに等しいと知り、実力があり、それが身体に染み込んでいた。この頃には、何かいどの中では、あまりよいで表えない。日中、起きて活め中では、あまりよいでは、あまりよいでは、あまりよいでは、あまりよいでは、あまりよいでは、あまりよいでは、あまりよいでは、かけばない。

だったが、今思えば、それがよすがでもあった。 た。あくまでも自分の場合はだ。あきらめにも似た気持ち われるかどうかの保証はない。ただ、自分にできることと 賛美するわけでも、それがすべてを解決する万能薬だと思っ 前向きであることだった。といって、前向きであることを いえば、あとは前向きでいることくらいなのだな、と思っ ているわけでもない。「何かいいこと」は起こらない、報 そんな日々の中で、もうひとつ身体に染み込んだのは、

もする。 を殊更頼んでやってきたわけでもないが、折にふれて、染 たことを忘れているだけかもしれない。前向きであること 振り返ることもあまりなかったなぁと思う。いや、振り返っ なりのときが経った。そのときそのときのことに必死で、 み出すように、私を布団の思考から守ってくれたような気 それから、新しい土地で暮らし始めて、気づけばそれ

すには、何のアイディアもないしそこまで時間もないし今 とできた、すき間のような時間。何かいいことを自分で施 洗濯した冬物を衣装ケースに収めているときだった。ふっ 日は家から出たくもない。なので、何かがどこかから降っ 何かいいことないかなぁ、が久々に心に浮かんだのは、

> てくるといいな、と願ったのだと思う。 この懐かしい言葉を、次の日に持ち越すことはなかっ!

た。あの日のあの時間だけ、少し何かを揺らした。

が私に降ってきた何か、なのか。そんな風にして、日々が 緑が葉の一枚一枚まで感じられるように鮮明に目に映る。 いつものスーパーに、今日は苺大福が置いてあった。これ ハナミズキが美しく盛りを迎えている。霞のない空、新



### 波線の先



(座敷わらし)

こちら側まで。その先は省略を示す波線で区切られていて、 なかなか足を踏み入れることのないエリアだ。 南はしいたけ会館付近。東西は郵便局あたりから千代川の 出不精のわたしの行動範囲はせまい。北はお城周辺から、 わたしのトットリ地図には、ナミナミが描かれている。

や温水プールなどの揃った大型の施設だったが、近所では 先、徒歩数分のところに大きな運動公園があった。体育館 あるものの小学校の校区外だったため、ひとりで行くこと 切られていた。実家から畑を挟んだ向かいの坂道を下った 子どもの頃、世界は「校区」という見えない境界線で区

だったと思う。中学へ上がる少し前のことだった。実家で となく足を向けたのだった。併設された公園で女の子数人 おり、いつも同じルートというのも退屈だったので、なん 飼っていた犬を夕方に散歩に連れていくのが日課になって それがたまたま足を延ばしたのは、犬の散歩がきっかけ

> は話してみると同い年で、「じゃあもうすぐ同じ学校だよ のグループと知り合い、一週間ほど毎日遊んだ。彼女たち

ね」と笑い合った。

みんな通うというのに。 に彼女たちが誰もいなかったことだ。あの付近の小学生は なったのだが、謎だったのは、数ヵ月後に入学した中学校 散歩のコースを変えたので夕方のお喋りはそれきりに

夕暮れに続く一本道をただ歩いたつもりで、知らず知らず のうちに自分は何かの境界を越えていたのだろうか。 それに気づいたときの不思議な感覚を今でも覚えている。



ました。サクラスキーとしては嬉しいことでした。 今年の桜は天候に恵まれて、珍しく入学式まで咲いてい

ドラメリア (編集長)

―を読んでいます。星海社新書『編集とは何か。』が刺激 人との交流が減少気味なので、かわりに対談やインタビュ

的でした。こんな人たちがこんな気持ちで作っていたのか、 奈良敏行(発行人)

と視野が開けます。